

高等学校における体育実技授業の実態調査： 体育女子大学生と一般女子大学生の比較

An Investigation on Actual Conditions of Physical Education Classes in the High Schools: Comparison of Female Physical Education College Student and Female General College Student

及川 佑介

OIKAWA Yusuke

長谷川 千里

HASEGAWA Chisato

1. はじめに

昨年度(平成27年度)、保健体育科の教員養成を行う東京女子体育大学体育学部(以下、「本学」と略す)の新入生に、高校時代の保健体育授業の実態調査を行った。それは、高校時代の体育授業の実態を理解し、本学での学生教育をより充実させるための資料とすることを目的とするものであった。今年度(平成28年度)はその調査を継続し、一般女子大学生を対象に同じ調査を行い、体育女子大学生(本学)と一般女子大学生の比較を試みた。なお、調査人数は417人で回収率は100%であった。

本稿では、平成27年度の調査・体育女子大学生と平成28年度の調査・一般女子大学生との比較をした結果、「体育授業における主観的上達度」、「体育実技内容」、「施設、用具と実施率の関係」の3点に注目した。

2. 「体育授業における主観的上達度」について

体育女子大学生と一般女子大学生で、著しく異なった点は、「体育授業における主観的上達度」であった。種目別にみると両者ともに上達したと感じた数値の割合は似ているが、体育女子大学生の数値は、すべてにおいて一般女子大学生の数値を17%～31%上回っていた。以下の図1がその数値である。

	体育女子大学生	一般女子大学生
体づくり運動(体操)	42.8%	25.9%
器械運動	58.7%	37.6%
陸上競技	55.9%	33.7%
水泳	52.9%	33.5%
球技	76.0%	59.9%
武道	64.3%	33.3%
ダンス	52.2%	34.2%

図1 体育授業における主観的上達度

図1から、平成27年度の調査で推測した通り、体育学部に進学した者は体育実技種目全般において主観的上達度が高く、運動・スポーツに達成感を得た割合が一般女子大学生に比べて多いということがわかった。

3. 高等学校の体育実技の内容について

体育実技の内容について、一般女子大学生に「個人技能の練習」、「集団技能の練習」、「試合」、「授業なし」の質問を行った(複数選択可)。「個人技能の練習」、「集団技能の練習」、「試合」の項目を種目別で図2に記した。

図2より、ゴルフ以外の種目で、「試合」の数値が他の項目に比べて高かった。種目別でみた数値の割合も一般女子大学生と体育女子大学生はほとんどの数値の割合は同じであった。ただし、ほとんどの数値の割合が同じであったからこそ、この調査の信憑

	個人技能の練習	集団技能の練習	試合
バスケットボール	75.6% (73.5%)	75.6% (70.8%)	96.7% (92.7%)
ハンドボール	64.4% (20.1%)	76.0% (22.6%)	88.4% (25.1%)
サッカー	62.8% (38.3%)	69.2% (38.3%)	95.3% (60.3%)
ラグビー	実施率が低く、他種目と比較するのは難しい		
バレーボール	76.4% (75.7%)	81.0% (74.9%)	94.8% (92.1%)
卓球	52.1% (29.2%)	43.3% (20.6%)	93.2% (67.7%)
ソフトテニス	61.5% (23.8%)	56.8% (14.4%)	85.2% (30.4%)
硬式テニス	80.8% (32.0%)	53.2% (20.2%)	86.2% (34.3%)
バドミントン	66.7% (48.1%)	57.9% (33.5%)	93.7% (74.7%)
ソフトボール	61.6% (38.6%)	72.7% (38.4%)	93.7% (52.3%)
野球	実施率が低く、他種目と比較するのは難しい		
ゴルフ	92.3% (12.0%)	23.0% (2.5%)	30.7% (4.2%)

図2 体育実技の内容における「個人技能の練習」、「集団技能の練習」、「試合」の割合
(括弧は体育女子大学生の数値)

性が高いといえる。

こうした体育実技の内容の質問を項目に入れた理由は、筆者らが体育実技の授業をしている中で、「これまでの授業で試合しかしてこなかった」ということを学生に聞いていたからであった。その点から図2をみると、「卓球」では、一般女子大学生・体育女子大学生ともに、「試合」と答えた数値と「個人技能の練習」「集団技能の練習」と答えた数値との差が大きいことがわかった。つまり、この数値の差は、筆者らが危惧していた通り、約半数が授業で試合しか行っていないと考えられるものであった（「卓球」においては体育女子大学生は、「試合」67.7%、「個人技能の練習」29.2%、「集団技能の練習」20.6%）。

4. 施設、用具と実施率の関係について

体育女子大学生と一般女子大学生での調査から施設や用具のことが実施率と関係しているように思えた。実技内容の実施率を図3に表した。

実技内容	実施率
体づくり運動（体操）(343人)	82.4% (39.0%)
器械運動 (250人)	60.3% (55.7%)
陸上競技 (356人)	85.9% (83.7%)
水泳 (191人)	46.2% (42.3%)
球技 (412人)	98.8% (98.7%)
武道 (93人)	22.7% (26.2%)
ダンス (312人)	75.3% (73.8%)

図3 一般女子大学生における実技内容別の実施率
(実施率の括弧は体育女子大学生の数値)

図3より、実施率が50%を切った実技内容は、「武道」(22.7%)と「水泳」(46.2%)であった。そして、「器械運動」の実施率は60.3%であったが、その種目別に実施率をみると「マット運動」(56.7%)、「鉄棒運動」(2.6%)、「平均台運動」(5.7%)、「跳び箱運動」(19.0%)であり、「マット運動」以外は、ほとんど実施していないと考えられる。従って、実技内容別に実施率を比べると、施設や用具のことが関係していると思える。さらに、球技では、「野球」(5.5%)、「ゴルフ」(3.1%)、「ラグビー」(1.6%)の実施率が極端に低く、武道では、柔道(11.2%)、剣道(11.7%)、相撲(0%)、なぎなた(0.4%)、弓道(0%)、レスリング(0%)というように、武道自体の実施率が22.7%である中で、相撲、なぎなた、弓道、レスリングはほとんど実施されていない。なお、施設と用具が実施率と関係があると考えられる他、身体接触が多い種目も実施率の低さと関係している可能性もあるが、これは、今後の課題としたい。

また、実技内容別の実施率で体育女子大学生と一般女子大学生に大きな差がみられたのは、「体づくり運動（体操）」であった。高等学校において「体づくり運動（体操）」は必修となっていることを考えると一般女子大学生の82.4%は妥当な数値であるといえるが、体育女子大学生の39.0%という数値には疑問を感じる。これは、平成27年度の調査で述べた次のこと、「体づくり運動は『体ほぐしの運動』、『体力を高める運動』から成り、様々な種目と併せて実施されることが多いと推測できるため、体づくり運動（体操）を単独で

実施した経験のない学生が多く、実施していないととらえられているのではないかと考えられる。このことから、体づくり運動(体操)は単独で実施する高校が少なくと考えられる」¹⁾がいえるのではなかろうか。

5. おわりに

平成27年度と平成28年度の2年間にわたる高校時代の体育実技授業の実態調査を行った。今年度(平成28年度)は体育女子大学生と一般女子大学生の比較をした結果、主に以下のことが明らかになった。

1. 体育女子大学生は一般女子大学生に比べて、体育や運動を通して充実感や達成感を得た割合が17%～31%上回っていた。
2. 高校時代に体育実技の内容で試合しか行っていないと考えられる種目があった。特にその数値が高かったのは、体育女子大学生、一般女子大学生ともに「卓球」であった。
3. 実技内容の実施率が体育女子大学生、一般女子大学生ともに50%を下回ったのは、「武道」と「水泳」であり、「器械運動」は50%以上の実施率はあったが、その種目別にみると、「マット運動」以外の「鉄棒運動」、「平均台運動」、「跳び箱運動」は、ほとんど実施されていないことがわかった。このことから、施設や用具のことが実技内容の実施率と関係しているように思える。

以上のことから、体育実技で充実感や達成感を得た者が体育学部に進学する傾向がみられた。そして、高校の体育実技では、種目によって試合しか行っていないという問題が浮上し、実技内容の実施率が施設や用具に関係していると思われる。

また、体育学部に進学した学生は、体育・スポーツを行う環境が他に比べて恵まれていたと推測できる。運動が得意だから恵まれた環境を求めたのか? 恵まれた環境にあったから運動が得意になったのか? は定かではないが、「恵まれた環境」ということが

体育実技の実施に関わらず、スポーツや運動の実施にも関係しているように思える。従って、今後の課題は、スポーツや運動の「恵まれた環境」とは何を指すのかを知ることであると考ええる。このことによって、東京女子体育大学が本学の学生に向け、社会に向け、発信すべきことがみえてくるのではなかろうか。

引用参考文献

- 1) 長谷川千里、及川佑介「高等学校における体育実技授業や課外活動等の実態調査」『東京女子体育大学女子体育研究所所報(第10号)』東京女子体育大学、2016. 3
- 2) 掛水通子(他9人)「本学新入生の高校時代における保健体育授業や部活動等の実態調査概要」『東京女子体育大学女子体育研究所所報(第10号)』東京女子体育大学、2016. 3